

# バイオ系のキャリアデザイン

## 就職支援 **OGOB** インタビュー編

### はじめに

本連載担当より本企画の趣旨と目的をご紹介します。

私は奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科において、企業人としてのキャリアアドバイザーを務めており、その経験の中で多くのバイオ系の学生の就職支援を行って参りました。この春で6年になりました。

毎年博士課程前期と後期の学生 100 名前後の支援（講義、セミナー、個人面談など）をし、修了時に、半年後には入社後の様子を知らせてもらうようお願いしています。また、修了生に OGOB として後輩に「セミナー&座談会」という企画に協力してもらっています。その中で、「紙上インタビュー」と銘打って、就職後の担当職務、キャリアパス、組織の魅力、やりがい、将来展望、後輩へのアドバイスなどに関する質問にインタビュー形式で回答してもらいます。こうして、多くの業界・職種で博士、修士修了生の現在の働き方と生き方についての生の声が集まってきました。

本「バイオ系のキャリアデザイン-就職支援 OGOB インタビュー編」は、本和文誌の 2014 年 6 月号から開始した「バイオ系のキャリアデザイン」本編を編集委員会で企画する中で、本誌の読者である学生向けの記事も提供したいとの声があがり、実現しました。就職活動中の学生やこれから始める学生に向けて、キャリア選択へのヒントとして先輩の経験談やアドバイスをお届けすることができたら嬉しく思います。

記事の内容は、インタビューへの回答という形で行います。今後は生物工学会和文誌の編集委員や学会支部のメンバーの所属大学や組織を通じて、バイオ系の若手に今回と同様のインタビューを行い、随時掲載して参ります。

読者の皆さままで、インタビューを受けてもいいよという方がいらっしゃいましたら、是非編集委員会までご連絡ください。（連絡先：日本生物工学会 E-mail: info@sbj.or.jp）

今回は、すでに後輩向けにインタビューに回答くださっていた奈良先端大博士課程後期出身のお二人に、本シリーズ向けに加筆改訂頂き、ご登場頂きます。

（企画・編集担当 新城雅子）

### Interview ①

株式会社資生堂 リサーチセンター

宮井 雅史



出身大学・卒業年度：奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 2010年 博士課程後期修了  
博士論文タイトル：毛包及び表皮角化細胞分化における転写因子Mafファミリーの機能解析

### 現在の仕事について

#### ◆ 担当職務

将来の化粧品、医薬品開発の基礎となる研究業務

#### ◆ キャリアパス

2010年4月～2011年3月

#### 製品開発

仕事内容：日焼け止め、BB クリームなど紫外線防止機能を持った化粧品や医薬部外品の製品開発。

やりがい：化粧品の中でも、機能が SPF 値、PA 値が明確に数字で表されるので機能性と使用感が同時に求められ、難しさもありますが、その両立がお客さまの喜ん

でいただける価値に直結しているのでやりがいがあります。また、処方設計、試作を経て、自分で生み出した製品が世の中に出て行く時は感無量です。

#### 2011年4月～2014年4月現在

#### 基盤研究

仕事内容：既存の概念にとらわれない将来の化粧品、医薬品開発の基礎となる研究業務を行っています。

やりがい：既存の概念から離れて、新しいものを生み出すことは大変難しいですが、誰もしたことがない研究にもチャレンジすることができ、大変充実した研究業務だと感じています。研究結果は、場合によっては、学会発表など外部に発信することで、新しい概念、まったく新

しい化粧品文化を世界に向けて提案できることは大きなやりがいです。

#### ◆ 現在の会社・組織の魅力

- ・人として個人を尊重しあって仕事ができている
- ・社員同士がとても良好な人間関係が築けている
- ・仕事面では妥協がなく、お互い切磋琢磨できている
- ・世界のお客さまが相手であり、さまざまな価値観を考えて仕事ができる

#### ◆ 現在の就職を決めた理由

人の役に立てること(疾病の治療、生活の改善など)、メーカーに代表されるモノを創造する研究・開発に携わりたいと考えていたこと、将来のモノ作りのために基礎研究は必要と考えていたので基盤研究も行っている企業を考えていました。

弊社は、これを満たしていたことに加え、選考過程で会うことができた社員、面接官の人柄がとてもよく一緒に働かせてもらいたいと感じ、また大学院の研究を活かして、製品開発、基盤研究を仕事にできると感じたからです。

#### ◆ 将来設計(描けるキャリアパス)

現時点では、研究職でさらに高みを目指したいと思っています。入社して5年目でまだまだ諸先輩方に支えてもらいながら研究テーマの進行がうまくいっていますが、将来的にはテーマ設定から提案を通して、テマリーダーとして研究を進めていくこと、そしてその研究がお客さまの喜んでもらえる顔につながることを目指していきたいです。

#### ◆ 挑戦したいと思っていること

業務で特許に関わるが多くなってくるに従い、特許の重要性がわかってきたと同時に、もっと詳しく知りたいと思っているので、研究実務に関われなくなったら、特許関連に挑戦したいです。

### 社会人として

#### ◆ 一番感動したこと

開発した製品が市場に出て行き、お客さまの手に渡った実感が出たときです。

#### ◆ 一番困難だったこと&どう乗り越えましたか？

入社1年目に製品の改良研究を締め切りまであと一か月という状況で任されたことです。

乗り越えることができたのは、まわりの先輩方の力を借りることができたことです。そのためにしっかりコミュニケーションをとることを心がけました。内線電話で済ますのではなく、自分が足を運び、業務時間を割いてもらっていることを意識し、問題点、困っていること、教

えて欲しいことを簡潔に伝え、しっかり習得することに努めました。

#### ◆ 仕事のプロになるコツ

前問と同じですが、しっかりコミュニケーションをとることを心がけました。

たとえば、何か聞きたいことがあれば電話で済ませるのではなく、自分が足を運び、業務時間を割いてもらっていることを意識し、問題点、困っていること、教えて欲しいことを簡潔に伝え、しっかり習得することに努めるなどです。仕事は一人のできるなんてことは絶対ないので、仕事が上達すればするほど、初心を忘れないことでしょうか。

#### ◆ 博士力、どこで発揮していますか？

仕事における論理展開、プレゼンテーション、多少の辛さではへこたれないメンタル、新しい分野の知識を習得することに対する挑戦です。博士で学んでいた頃、研究の中身以外で重要なことは、専門知識以上に重要であることにも良く気づきます。

### 人生について

#### ◆ 何のために働くのですか？

仕事を通して、人の役に立つため。特に現在の業務では実感できます。やはり給料を頂き、生活をするためであることは念頭にあり、だからこそ、責任を感じて仕事ができます。

#### ◆ ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

仕事の責任に対する対価なのでとても貴重です。

#### ◆ ワークライフバランスで工夫していること

大学院の頃のように、時間が許す限り仕事に没頭しないようにしています。

なぜなら、仕事は自分の人生の充実した一部であるのは確かですが、もっと大事なのは家族との時間ですので、平日は遅くならないように帰宅し、休日は緊急時以外には出社しないようにしています。

#### ◆ 現在の夢は？

自分の仕事を通じて、皮膚トラブルをなくすることができる商品・医薬品が誕生することです。

#### ◆ 将来の展望

研究生活を続けたいですが、もしできなくなっても研究分野に関わる仕事をしたいです。

---

連絡先 E-mail : masashi.miyai@to.shiseido.co.jp



出身大学・卒業年度：奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 2009年 博士課程後期修了  
博士論文タイトル：栽培イネにおける花成時期の多様性をもたらす分子機構の解析

## 現在の仕事について

### ◆ 担当職務

遺伝子組換え作物の認可取得業務

### ◆ キャリアパス

ドイツマックスプランク植物育種学研究所にてポストドク  
やりがい：トップレベルの研究所で優秀な研究者たちと最先端の研究ができた事。

### ◆ 現在の会社・組織の魅力

世界における遺伝子組換え作物の作付面積は増加傾向にあり、これを取り巻く環境は大きく変化しています。このようにダイナミックに成長する業界で働く事で自分を成長させることができると感じています。

### ◆ 現在の就職を決めた理由

基礎研究分野のみにとどまらず、産業に近い分野にも興味があったため、これまでの経験を生かせる職場として民間企業を含め幅広く探していました。入社に至ったのは、ドイツにいる時に、研究室の先輩から現在の会社の求人情報を教えてもらったことが大きなきっかけとなりました。そして、これまでに勉強してきた分子生物学の知識、経験を十分に生かせることが就職を決めた大きな理由です。

### ◆ 将来設計（描けるキャリアパス）

グローバル全体の遺伝子組換え認可取得の管理や新規作物の開発に有用な基礎研究技術の発掘。

### ◆ 挑戦したいと思っていること

チャンスがあれば、アメリカ本社の研究所にて新規作物の開発に携わってみたいと思っています。

## 社会人として

### ◆ 一番感動したこと

アメリカ本社や他国の同僚と一緒に仕事をする事で、グローバルな規模での仕事に携わっていることに感動しました。

### ◆ 仕事のプロになるコツ

私が教えて頂きたいくらいですが、少なくとも自分が期

待されている分子生物学分野の専門知識については、常に勉強するようにしています。

### ◆ 博士力、どこで発揮していますか？

遺伝子組換え作物の認可取得の過程では、バイテク分野の専門的な知識が必要とされる場面が多くあります。このような場面にて、これまで培ってきた経験や知識が発揮できていると思います。

## 人生について

### ◆ 何のために働くのですか？

私という人間が必要とされる場所を得るため。

### ◆ ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

家族との生活

### ◆ ワークライフバランスで工夫していること

仕事と私生活のオンオフをはっきりさせることです。また、オフィスでの仕事が多いので、休日はなるべく外出しリフレッシュするようにしています。

### ◆ 現在の夢は？

子供を健やかに育てたい。

### ◆ 将来の展望

子供が自立したら、ドイツに住みたい。

## 後輩へ

### ◆ 大学でやっておいたらよかったと思えること

研究以外でも、現在の生命科学技術を取りまく産業や政策の状況についてもっと勉強をしておけば良かったと思います。

### ◆ その他なんでも、後輩に伝えたいこと

博士課程での生活は日々の実験ばかりに追われがちになってしまうかと思いますが、是非皆さんには、在学中にしっかりとサイエンスに向き合うと同時に、大学の教育プログラムにもしっかりと取り組む事で自分の価値を高め、将来的に柔軟な選択ができるように準備をしていただければと思います。

連絡先 E-mail：ytakahashi@dow.com